愛して、た。

音無　無音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
愛して、た。

【Ｎコード】
Ｎ３５５２Ｓ

【作者名】
音無　無音

【あらすじ】
明日に誕生日を控える「京太郎」。　それを祝おうとする彼女・あゆみ。　このカップルに悲劇が訪れる――。

（前書き）

グロくしあげてあります。
ご注意を。

男性視点でなぜ書いた？
まあいいか。

ブログにのっけたものをそのまま転載。

好きだった。

そう、表現するのが適切かな。
愛していた、でもいい。
俺は決めたんだ。
人を愛することなんて、簡単に止められるって。
元凶は、あれだった。

■　■

「ねえ、京太郎。もうすぐ誕生日だっけ」
「あ？おう」
普通の帰り道の会話。
どれだけそわそわしてるのか、あゆみからの「誕生日」という単語は今日で三回目だ。
「ねー、何か欲しいモノある？」
これも三回目。
「ねーよ。お前だけで十分」
「うっわー、はっずー！つーか、それどっかで聞いた」
「今日三回目」
「マジ？あたし三回も言ってたんだ？」
それ、二回目。
あゆみが「ねえ、お茶していこうよ」というので、近場の喫茶店に入った。

内装は結構オシャレで本当に女の子向けって感じ。
カップルも多少いた。もちろん、俺らも。

「カップルケーキセット？これにしよ！」
「やめてくれよ、恥ずかしい」
そういえばさっきの俺のセリフの方がはずいか。
「そういえば、さっきのあんたのセリフの方がはずいよ。」
「それ、俺も思った」と笑って返した。

その出てきた可愛らしいケーキを平らげ、
時間も時間だったので送ることにした。
「いいよ、ここまでで」
「そうか？」
せっかくだし、寄ろうと思ったのに。
結構人通りの多い大きな十字路。
車も行き交っている。
信号は青。
「じゃ、行くね」
あゆみはこちらをむきながら、笑顔で、手を振りつつ信号を着々と渡っていた。

はずだった。

骨をも砕き損ねない音で。
大型トラックが。
血をまき散らしつつ。
ギャリギャリギャリ、と轟音を発して。

あゆみを、
撥ねていった――

「あゆみ！？おい、大丈夫か！！」
周りでは大人が救急車を呼んでいた。

「きょう・・・・・・・た、ろ・・・・・・・」
「バカ、しゃべんな！！」
救急車は早く来たらしい。
オレらにとっては一時間にさえ、感じた。

あゆみは、病院で息を引き取った。
短い人生だった。１７年だ。
トラック運転手は飲酒運転だった。
数百メートル先で角を曲がりきれず、衝突して死んだところを警察が発見したらしい。

「あゆみ・・・・・」
俺は最低な誕生日を迎えた。
一人で。
こんなときに限って、思い出す。
あゆみと過ごした思い出。
あの時、俺も死ねばよかったのか？
違う、それじゃ、あいつが喜ぶわけない。

それじゃあ、俺はあいつのいない日々を過ごすのか？

そう思いつめる度、怖くなる。
一人で？
新しい彼女を作るのか？
無理だ。
俺にそんな精神力ない。
だから、そんなメンタル面をあいつがカバーしてくれたんだ。

そう思うとさらに怖くなった。

「京。学校行きなさい」
「・・・・・・・・・・・やだ」
「まったく。電話しとくわね？」
「・・・・・・・・・・・・・・・・・・うん」

あいつの欠けた生活。
ますます怖くなった。
だけど、あゆみは還らない。
戻ってこないんだ。
「あゆみ・・・・」
もう一度つぶやいた。
そして、涙をこらえきれず、こぼす。

もう。
戻らない。

好きだったよ。
いや、
愛してた。

（後書き）

作者的には京太郎を京ちゃんと呼ばせたい一心です。
そうするといつかの作品とかぶりかねないので／（＾ｏ＾）＼

読んでもらって
ありがとうございました！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3552s/

愛して、た。

2011年10月3日11時21分発行